

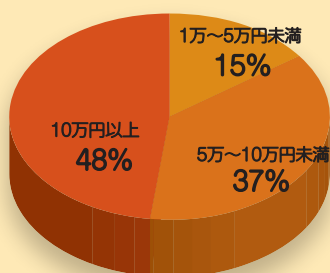
誤飲事故で手術をした場合の平均診療費は約114,798 円*!

*アニコム損保にて、2012年4月～9月までにお支払いをした保険金のうち、誤飲に関連する事故により手術を行った場合の1診療あたり（入院・通院）の平均診療費総額
手術無しの場合の平均診療費総額は約10,291円

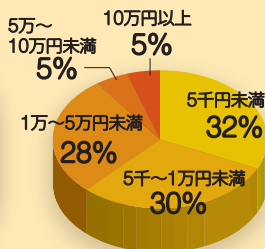
1診療あたりの診療費総額の割合

(2012年4月～9月までに実際にお支払いした保険金請求データ)

手術有りの場合



手術無しの場合



●手術有りの場合、診療費は高額！

アニコム損保にて実際にお支払いをした保険金のうち、誤飲で手術を行った場合の平均診療費は、約114,798円でした。症状によっては、複数回の通院や長期の入院となるケースもあり、診療費はさらにかさむことになります。

誤飲の治療には、催吐処置（吐かせる）、内視鏡、全身麻酔下での開腹手術等を行うため、どうぶつさんの体にとても大きな負担がかかります。飼い主さんの力で、一件でも悲しい事故を減らしていきましょう。

●誤飲の未然防止のために

具体的な誤飲の予防方法について、弊社獣医師のアドバイスを以下に掲載しております。ぜひ、ご家族やお散歩友達にもご紹介ください。

■獣医師からの誤飲を防ぐためのアドバイス



●「貸して」「ちょうだい」の練習は効果的！

普段から「貸して」や「ちょうだい」というと、口にくわえたものを飼い主さんに渡す練習をしておきましょう。そうすることで、万が一危険なものをくわえてしまっても、冷静に対処することができます。

●もし口にくわえても飼い主さんは慌てない！

口にくわえているのを見つけても、飼い主さんは絶対に焦ってはいけません。「ダメ！出さない！」と大きな声を出したり、無理に口から離そうとすると、逆に飲み込んでしまうことがあります。

●万が一の場合はすぐに動物病院へ！

もしも飲み込んでしまった場合には、無理に吐かせると危険な場合がありますので、すぐに動物病院へ連れて行ってあげましょう。

誤飲は種別・年齢問わず起こりうる事故ですが、飼い主さんのちょっとした心がけで予防できる可能性が高まります。



イベントの多い冬は、どうぶつさんの誤飲が起こりやすい時期です

クリスマス、お正月、バレンタイン等、どうぶつさんと一緒にイベントを楽しむ機会が多く、誤飲事故が起こりやすいので、飼い主さんはいつも以上に気をつけてあげましょう。



■この季節に特に気をつけてほしいもの

鶏肉の骨



フライドチキン等の鳥の骨は、噛み砕いて割れた骨片が消化管等に刺さってしまうことがあります。

フォーク



ケーキ等の食べ物と一緒にフォークまで食べてしまい、フォークの先が消化管等に刺さってしまうことがあります。大きなお口の大型犬は特に注意が必要です。

チョコレート



チョコレートに含まれるテオブロミンは、心臓、中枢神経を刺激し、最悪の場合死に至る事があります。小さいワンちゃんの場合、ひとかけらであっても、注意が必要です。

誤飲事故経験記

アニコム損保のご契約者の中から、実際にどうぶつさんの誤飲を経験している方にインタビューを行いました。誤飲した状況や誤飲したもの、予防策等について詳しくご紹介します。



おもちゃの誤飲

VANILLAちゃん (3歳/女の子/フレンチ・ブルドッグ)

フレンチ・ブルドッグの割に大人しく臆病。初めて見るおもちゃや、初めて食べるものに対して警戒する。ボールを見ると性格が一転し、いつまででも遊べる。ドッグランが大好きで、他の犬にも友好的。



●誤飲したもの

おもちゃのぬいぐるみのしっぽ部分 (大きさは約3cm×3cm)
周辺の糸や綿の部分も誤飲した疑い。

●誤飲した場所

お家の中

●誤飲時の年齢

1歳

●経緯

【異常発生時】

いつもは食に対する執着心があり食欲旺盛だが、突然、ごはんを見ても**食べなく**なり、**嘔吐**が数回続いた。

【通院1回目】

翌日通院し、**整腸剤**を処方してもらい**点滴**をしたが、その後も食欲がない状態が続いた。

【再診】

レントゲン撮影をするも、異常が見つからなかったため、点滴を行い様子を見ることにした。それでも**嘔吐**を繰り返したため、**造影剤**を使用した**レントゲン撮影**を実施したところ、**異物**が胃の幽門部と腸に見られた。異物は「毛玉」ではないかと疑い、「毛玉溶かし薬」を処方してもらい内服したが**改善がなく**、排便もみられなくなり、水分もとれなくなってしまった。当初7kgあった**体重は6kg台まで低下**した。

【セカンド オピニオン】

症状が変わらず、心配になり**他院でも診察**してもらった。採血・点滴・レントゲン撮影を実施した後、即、**開腹術**を試行した。その結果、異物は**おもちゃのぬいぐるみのしっぽの綿**のようなものと**糸**だったことが判明。**腸も閉塞**してしまった部位があったが**穿孔** (せんこう*1) は免れていた。6日間入院し、約1ヵ月後に抜糸をした。その後は**流動食**のようなものから食べさせ、**経過は良好**であった。(*1 腸の壁に穴が開いた状態)

【現在】

完治。以前のように食に対して反応が良く、通常量を完食できるようになり、体重も順調に増加した。3歳になった現在、体重は12kgになった。手術の跡も目立たなくなった。

完治までの通院・入院回数

通院:5回 入院:6日

手術の有無 / 異物摘出方法

有り / 開腹手術

診療費総額

(手術有りの場合、手術費含む)

30万円以上~50万円未満



●予防へのとりくみ

- ①おもちゃ (ぬいぐるみ) は出しっぱなしにしない。
- ②糸が取れそうになっているものや、綿が少しでも出てしまったものは、補強するか捨てる。
- ③小さなものが糸で縫い付けられているおもちゃは極力与えない。

どうぶつさんのお口の中に入る大きさのものは、全て飲み込んで詰まらせてしまう可能性があるの、注意が必要です。いつも遊んでいるおもちゃや、大好きなおやつのは大きさは大丈夫ですか？今一度、見直してみてくださいね。



チョコレートの誤飲

ユースケちゃん（5歳/男の子/シェットランド・シープドッグ）

家の中では元気いっぱいだが、外ではかなりの人＆犬見知りのとっても内弁慶な男の子。



●誤飲したもの チョコレート（袋に入ったまま）約10袋

●誤飲した場所 お家の中

●誤飲時の年齢 5歳

●経緯

【異常発生時】 飼い主さんが家に帰ると、出かける前は確かに棚にあったはずのチョコレートが、袋ごとなくなっていることに気づいた。

【通院1回目】 下痢と嘔吐があったため、驚いた飼い主さんは、ユースケちゃんがチョコレートを誤飲した事を疑いすぐに通院した。レントゲン撮影をするも、チョコレートの袋はレントゲンには写らない為、誤飲しているのか確定できず、先生と相談し、2～3日様子を見ることになった。

【再診】 再度、レントゲン撮影を実施したが、レントゲンには何も写らなかった。

【セカンドオピニオン】 念の為、他院でも診察してもらったが、やはりレントゲンには何も写らず、その時点では食欲も旺盛であったため、獣医師から1週間ほど様子を見るようにと言われた。2～3日後、嘔吐物からチョコレートが袋ごと出てきた。誤飲を疑ってから約7日経過していた。

【現在】 完治。

完治までの通院・入院回数

通院：3回

手術の有無 / 異物摘出方法

無し / 嘔吐

診療費総額
(手術有りの場合、手術費含む)

3万円以上～5万円未満

●予防へのとりくみ

ユースケちゃんがお留守番の時は、食べ物は戸棚の中に片付けて戸を閉める。



どうぶつさんが食べてはいけないもののリスト

たまねぎ・ねぎ・にら・にんにく類



感受性に個体差がありますが、アリルプロピルジスルフィドという成分によって赤血球が壊されるため、貧血を起こすことがあります。直接食べるだけでなく、煮汁も中毒を起こします。

チョコレート・お茶等



チョコレートやお茶に含まれるテオブロミンやカフェインは、心臓・中枢神経系を刺激し、場合によっては死に至ることもあります。例えば体重10Kgのワンちゃんが約100gのチョコレートを摂取した場合でも、これらの症状が現れる恐れがあります。ちなみに一般的な板チョコは1枚約70gですので、小さいワンちゃんの場合はひとかけらでも注意が必要です。



ナッツ(特にマカダミアナッツ)



多量摂取により、運動失調や後肢の麻痺を起こすことがあります。

生のイカやタコ・エビなどの魚介類



生の魚介類に含まれるチアミナーゼは、摂取しすぎると体内のビタミンB1が破壊されて神経障害を起こし、ふらつきや歩行困難を生じることがあります。さらに、ネコちゃんでは脂肪の酸化を抑えるビタミンEの摂取量が足りない状態でアジやサバなど青身の魚を過剰に食べると、これらの魚に含まれる不飽和脂肪酸が酸化して炎症を起こすことがあります(黄色脂肪症:イエローファット)。

なお、チアミナーゼは加熱すれば効力を失います。魚介類には必須アミノ酸のタウリンを多く含むという長所もあります。加熱して、適量をバランスよく与えましょう。

牛乳などの乳製品



ワンちゃん・ネコちゃんは牛乳に含まれるラクトース(乳糖)を分解する酵素が少ないので、量によっては消化不良や下痢を起こしてしまうことがあります。ヨーグルトやチーズなどはラクトース(乳糖)が分解・除去されていますが、様子を見ながら少しずつ与えるようにしましょう。

レーズン・ブドウ



ワンちゃんに有害である事が立証されており、重度の場合、腎不全から死亡する例も報告されています。ネコちゃんについては、まだよく分かっていないようです。

キシリトール



キシリトールの代謝や感受性は、人とワンちゃんとは大きく異なります。キシリトールの摂取により、血糖を下分泌されるので低血糖症を起こしたり、肝臓に障害を起こしたりする可能性があります。

生卵の白身



生卵の白身には、ビオチン(ビタミンB群の一種)の吸収を妨げるアビジンが含まれています。そのため過剰な生卵の摂取はビオチン欠乏を引き起こします。

鳥や魚の骨



先がとがっている骨は口の中や食道・胃腸を傷つける恐れがあり危険です。飼い主様のパーティー後の食べ残し、道に落ちている鳥の骨なども注意しましょう。

アボカド



アボカドに含まれるペルジンの多量摂取により、胃腸炎を起こす恐れがあります。フェレットさん・うさぎさん・鳥さんなど小動物にとっては少量でも危険です。

生肉



生肉の摂取についてはさまざまな意見がありますが、寄生虫や細菌への感染が懸念されるため、与えない方がよいでしょう。特に生の豚肉は、トキソプラズマという原虫感染症を起こす危険があります。

「どうぶつ相談室サイト」では、どうぶつさんのしつけやお手入れ、健康管理をもっと知っていただくための情報を掲載しております。ぜひご利用ください。

どうぶつ相談室

検索

【発行元】アニコム損害保険株式会社 〒161-8546 東京都新宿区下落合1-5-22 アリミノビル2F

【お問い合わせ先】

あんしん
サービスセンター

0800-888-8256

携帯電話・PHSからはこちらへ **03-6810-2314**

受付時間:平日 9:30~17:30 土日・祝日 9:30~15:30

※ご利用のIP電話のご契約状況により、左記「0800」の番号にはつながらない場合があります。

※サービス向上のため、通話内容を録音させていただく場合があります。